

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170300380
法人名	有限会社 喜楽
事業所名	グループホーム 喜楽
所在地	佐賀県鳥栖市弥生が丘1丁目31番地 (電話) 0942-81-5558

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20年9月30日	評価確定日	平成 20年11月25日

## 【情報提供票より】(平成20年8月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年8月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	0 名	要介護2	4 名			
要介護3	1 名	要介護4	2 名			
要介護5	2 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	88 歳	最低	84 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	古賀内科医院	やよいが丘鹿毛病院	うえまつ歯科	くまもと歯科
---------	--------	-----------	--------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、鳥栖市弥生が丘から徒歩数分の距離で、交通量の多い道路に面し、比較的新しい建物や店舗が立ち並びつつある地域に位置している。気候がよい時は近隣の店舗等に職員と一緒に買い物等に出かけられている。開設より入居され介護度が増した方や身体的に元気で活動的な方、それぞれ居住されているが、職員一人ひとりが入居者の個性や生活歴を把握し、入居者個々人の現在の健康状態等の中で、それぞれに楽しみをもって、安心して過ごしていけるよう支援されている。また、健康管理面においても、協力医と密に連絡を取り合いながら入居者への細やかなサポートが行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を踏まえ、市の担当者、市の広域圏内で取り組まれているグループホーム運営会議を通じ、それぞれに積極的な連絡・相談等を行いながら、ホームでのサービス提供が行えるよう、協力関係を作られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価への取り組みは、職員全体が日常の業務を振り返り、再確認する機会となっている。グループホームに求められている役割を認識し、話し合いを通して評価に取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、施設長、管理者を始め、家族会の代表、地域の民生委員、区長の方が参加されている。会議では、ホームでのサービスの取り組み状況の報告、今後のサービス等について話し合いが行われ、そこで出された意見や情報を、サービスの改善・向上へ活かしている。また、グループホーム運営会議の関係上、普段から市の介護保険担当課と情報交換する機会を多く持たれるなどの連携が図られている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム内での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等は、家族来訪時や家族会等を通して報告が行われている。家族からの意見、要望等を伝える手段の一つとして意見箱の設置がなされているが、家族への報告等普段からの関わりの中で気づき、寄せられた、声をミーティングにて検討を行い対応を行うようにされている。今後、ホームたより等にて職員の異動等についても、家族へ報告するなどの取り組みが望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事などへは利用者と共に参加し、地域の人々と交流をもてる体制を築かれている。また、子ども110番の協力や区長の来訪や、地域の子供会の会合へホーム職員が参加したり、夏祭りなどの出席への打ち合わせなども取り組まれている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の生活歴、その人らしさを考え、安らぎとあたたかみのある暮らしが送れる様、個々の意思やプライバシーを考慮したホーム独自の五つの理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングなどを通して、入居者が日々安心して過ごしてもらえる様、管理者、職員それぞれ理念をふまえ、業務に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事などへ参加し、地域の人々と交流をもてる体制を築かれている。また、地域の子供会の会合へホーム職員が参加し、夏祭りなどの出席への打ち合わせなども取り組まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で自己評価の項目を確認し、グループホームに求められている役割を意識し合い、話し合いを通し評価に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、施設長、管理者を始め、家族会の代表、地域の民生委員、区長の方が参加されている。会議では、ホームでのサービスの取り組み状況について報告や話し合いが行われ、そこで出された意見や情報を踏まえ、改善やサービス向上へ活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市の介護保険担当課とはコミュニケーションを図り、連携が保たれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者のホーム内での暮らしや健康状態、金銭管理などについて、家族来訪時や家族会などを通して報告が行われている。定期的にホームたよりも発行されている。しかし、職員の異動や、入退職については報告されていない。	○	職員の異動や入退職についても、家族に報告を行っていくことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内には意見箱が設置されている。家族からの意見、要望等に対しては、ミーティングにて検討を行い対応するようにされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は入居者へ異動・離職等について説明を行っていたが、入居者が不穏になられる等あって、いろいろ検討した結果、現在は、交代を除々に行い、不安を与えない様に配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を回覧するなどして参加の促しを行っている。また、ミーティング・勉強会を通して、参加した研修内容の報告を行う等、職員全体で共有できるように取り組まれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の広域圏内で取り組まれているグループホーム運営会議を通じ、勉強会や他ホームとの情報や意見交換等が行われるなどのネットワークが作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に当たっては、本人の生活歴、対応の仕方等の情報を家族と話し合いながら集めるとともに、個々の状態に応じて、昼間の出入りや2～3日の宿泊といった体験利用を通し、検討を行いながら、無理なく入居することができるように取り組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごす中で、入居者の思いや喜びを知ることにより、笑顔を引き出し、相互に分かり合えるようにしている。また、楽しまれた事柄や喜ばれる言葉や出来事などを、職員間で共有し、日々のケアに取り組まれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々の介護度も異なり、年々、暮らし方の希望や思いを自分で表現する事が困難になってきている方も増えてきている。入居者個々のペースに応じて、職員は声かけや見守りを行いながら、入居者の何気ない一言や、言葉にしづらい思いを、表情や行動から汲み取り、日常のケアに活かせる様取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見や希望、日常のケアを通して得られた入居者の生活状況を踏まえ、全体で話し合い、それぞれの意見や意向を取り入れた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の介護度の変化やサービス内容の変更が必要となった場合には、入居者個々の状態に応じて、新たな介護計画の作成がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望・要望を踏まえ、病院への通院付き添い等可能な範囲でサービスを行う様に取り組まれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医が入居後の主治医となる場合がほとんどであるが、特別な疾患などある場合には、家族へ相談し、適切な医療が受けられるように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期のあり方やホームの対応について、早い段階から家族や、かかりつけ医等と話し合いを行い、方針の共有がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個々の性格や生活歴に配慮して、入居者を傷つける事がないような言葉かけ・対応が行われている。入居者に関する書類・記録物等の個人情報は、個別に事務所内で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々人の生活のペースやリズムを考え、その日、その時の希望や意見を取り入れた支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は個々の希望を取り入れながら、3日間分ずつ入居者と職員で話し合いで取り決め買い物が行われている。食事の準備や片付けを依頼できる方には、声をかけ一緒に行っている。また、楽しく食事が行えるよう席の配慮など雰囲気作りも大切にされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ある程度の基本的な曜日や時間は取り決めているが、入居者の希望やその時々タイミングに合わせて、入浴していただけるように支援されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者と一緒でできそうな事や、好まれることを日々の生活から見つけ出しながら、共に楽しみをもって生活が送れるよう支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や状態、天候などに応じて、買い物や散歩などの外出支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に鍵をかけないケアに取り組まれている。入居者の見守りと行動パターンを把握すると共に、地域への理解を求め、声かけや見守り、連絡をしてもらえる関係を築かれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地区の区長の支援を得て、地域の消防団等との協力体制の構築へ至っている。消防署からの器具の点検等も行われているが、避難訓練は年1回しかできていない。	○	今後、避難訓練を年に複数回以上、定期的を実施できるように取り組んでいくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況の記録と職員間での情報の共有がなされ、一人ひとりの状態に応じた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれが好まれる場所で、思い思いに過ごすことができるよう、空間・雰囲気作りに努められている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々人の生活スタイルに合った日用品を持ち込んでもらい、使いやすい様に配慮がなされている。また、転倒や家具等での怪我がないように、安全面にも気を付けた対応が行なわれている。		